

会 議 録

会議の名称	令和4年度第1回茨木市総合教育会議
開催日時	令和4年10月27日(木) 午前 ・午後) 10時00分 開会 午前 ・午後) 11時50分 閉会
開催場所	市役所南館8階 中会議室
議長	福岡 洋一(茨木市長)
出席者	福岡 洋一(茨木市長) 岡田 祐一(教育長)、前川 佳之(教育長職務代理者)、 堀村 佳奈子(教育委員)、堀井 孝容(教育委員) 水上 明美(教育委員) 【6名】
欠席者	なし
事務局職員	上田企画財政部長、山崎こども育成部長、小田教育総務部長、青木学校教育部長、辻田教育総務部次長、梶西学校教育部次長、岩崎政策企画課長、新川教育センター所長、三好政策企画課課長代理、谷口教育政策課係長 【10名】
開催形態	公開
議題(案件)	(1) 開 会 (2) 市長あいさつ (3) 報告案件 茨木市教育大綱の体系に沿った第5次茨木市総合計画における施策等評価結果について (4) 協議案件 1 いじめについて 2 非認知能力の育成について 3 G I G Aスクール構想の進捗について (5) その他 (6) 閉 会
配布資料	(1) 茨木市教育大綱の体系に沿った第5次茨木市総合計画における施策等評価結果 (2) いじめについて (3) 非認知能力の育成について (4) G I G Aスクール構想の進捗について
傍聴人	1名

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局	<p>1 開会 ただ今より「令和4年度 第1回茨木市総合教育会議」を開催する。 本日は傍聴者が1名おられ、会議は原則公開としており、既に傍聴者の方には、入室していただいている。</p>
福岡市長	<p>2 市長あいさつ 教育現場では、GIGAスクール構想等で変化が生じる中で、新たな課題が生まれていることを承知している。教育委員の皆様がどういった考えをお持ちか、少しでも教えていただき、しっかり理解した上で、予算を担当する市長部局として、独断専行にならないよう、進めていきたい。</p>
福岡市長	<p>【インクルーシブ教育について】 議題にはあげていないが、インクルーシブ教育の進捗について、ご教授いただきたい。</p>
岡田教育長	<p>インクルーシブ教育について、11月末に障害がある子どもたちの保護者の意見も聞きながら今後の方針を出していく。これまでの経緯も含め、市の方針や現状、考え方を市ホームページで示していく予定である。 また、茨木市の「共に学び、共に育つ」を守っていきながら、障害がある子どもたちの教育の中身について、学校と保護者とで話し合い、保護者の納得を得ながらできていたのかというところを再確認している。 文科省が提示している50%という数字を当てはめるのではなく、子どもたちの状況に応じてどうしていくのか、学校と保護者がすり合わせを行っているところ。来年度、学級設置を含めて考えていきたいと考えている。 また、子どもたちの負担にならないよう環境面を整えていきたい。</p>
福岡市長	<p>3 茨木市教育大綱の体系に沿った第5次茨木市総合計画における施策等評価結果について（報告案件） 「茨木市教育大綱の体系に沿った第5次茨木市総合計画における施策等評価結果について」、事務局から説明を求める。</p>
事務局	<p>【茨木市教育大綱の体系に沿った第5次茨木市総合計画における施策等評価結果について説明】</p>
福岡市長	<p>何か、ご質問、ご意見等は。</p>
堀村委員	<p>教員の業務環境の改善や負担の軽減について関心がある。</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
堀井委員	<p>校長会教頭会で、教員と会う機会があったが、少し余裕がなく、子どもたちと向き合えているかというところに不安を持つ教員が多かった。いじめの問題などでも、教員に、一人一人の生徒児童と向き合い、細かいところに気づけるという余裕があつてこそ、問題の発見にも繋がると思うので、教員の方の負担の軽減を考えていきたい。</p> <p>「生きる力」を育む教育を推進する、「豊かな心」の醸成、こういった部分は教室で教育をするだけでは充実しない。課外授業の充実が図られるべきだと考える。教科以外のところでも、豊かな心の醸成を目指していただきたい。</p>
水上委員	<p>心豊かな気持ちを育む点で、非認知能力の育成は大切である。非認知能力の育成の取組により、子どもたちにどのような力がついていくのか、検証結果に期待をしている。</p>
前川教育長 職務代理者	<p>教育委員会独自で詳細な施策評価を行い、第三者委員の意見も聞いてPDCAを回していると聞いており、大変評価をしている。</p> <p>ただ、教員の質の向上は喫緊の課題だと考えている。教員によって、子どもに対する愛情や教育に対して熱意に差があるようで、いじめへの対応も含め、子どもとしっかり向き合う教員の育成に力を入れていかなければならないと思う。</p>
岡田教育長	<p>教育の課題は多い。教育委員会と学校現場がすり合わせをしながら進められているかが一番大事な部分だと思う。教員が若返っていることもあり、教員の質という点では、研修等で高めていかないといけない。</p>
福岡市長	<p>教育委員の皆さんの、関心事が知れてよかった。</p> <p>個人の意見としては、子どもたちだけでなく、教員方にも少しでも閉塞感がないようなフィールドをできる限り用意していきたいと考えている。</p>
福岡市長	<p>報告案件については以上とさせていただきます。</p>
福岡市長	<p>4 (1) いじめについて (協議案件)</p> <p>次に、協議案件の「いじめについて」、事務局から説明を求める。</p>
事務局	<p>【いじめについて説明】</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
福岡市長	何か、ご質問、ご意見等は。
堀村委員	<p>いじめに関しては、早期発見が重要とされている。教員だけではなく、生徒児童自身にも、何がいじめなのか、あればSOSを出すことを促すことも大事。保護者や教員だけでなく、地域の方など誰でもいいので、学校現場に知らせてもらえる環境作りが大事だと思う。また、教員がいじめの早期発見ができるような環境になるよう、先程話したように、教員の負担軽減も必要だと考える。</p> <p>また、いじめの認知件数が上がっているというところは良い傾向だとは思いますが、それにより、対応が多く必要になる。どれだけ認知件数が上がっても、一つ一つに対応できなければ全く意味がないので、きちっと対応できるようにしなければならない。一人ひとりがいじめに対して、認識を高めて、悲しい事件を1つでも減らせるように、きちんと対応していきたいと思う。</p>
堀井委員	<p>いじめは絶対になくならない。いじめを学校側だけで処理するのが問題ではないか。行政に申し立てするような窓口があるのか。教育委員会ではどのように対処しているか。茨木市だけでなく、他自治体でも明確には示されていない。学校に相談できる場所がなければ、市の窓口を広く認知させることが必要ではないか。</p> <p>SNSについて、匿名で被害者の知らないところで悪口を言うケースがある。学校であらためて、SNSの利用方法を指導すべきである。</p>
水上委員	<p>もともと学校現場にいたが、いじめについては大変心が痛い。いじめの原因がどこにあるかはデリケートな問題である。いじめた側もいじめられた側もその原因がわからないことが多い。こどもを理解する努力があらためて必要だと思う。</p> <p>また、いじめの解決には多くのマンパワーが必要である。現在も、スクールカウンセラーに相談できる体制があるが、常駐いただいているわけではない。お金がかかる話ではあるが、いつでも相談できる体制の整備が必要なのではないか。</p> <p>コロナ禍が落ち着けば、こどもの心にコロナの影響による何らかのマイナスの影響が出てくるのではないかと危惧している。そのような影響が出る前に、予防していくような、心を豊かにしていく取組が必要だと考える。</p>
前川教育長 職務代理者	いじめについて、認知件数が小中学校とも増えている。これは、小さなことでも見逃さないという姿勢によって増えていると認識しており、外部

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
岡田教育長	<p>委員からも評価いただいている。</p> <p>いじめ問題を把握するための色々なチャンネルを持つことが非常に大事なことだと思う。先ほど、水上委員からも発言があったとおり、スクールカウンセラーの派遣は非常に有効な施策だと考えている。今後とも、市長には、スクールカウンセラーの充実を要望する。</p> <p>教員がいじめを知ろうとしない、見ようとする、関わろうとしないというのはあってはならない。教員がいじめに対するアンテナがきちんと張られていることが重要である。</p> <p>今後は、いじめの認知件数でなく、解消した数や率が大事になってくる。そのためには、学級集団作りで子どもの心を耕すということが大事になる。教員に時間的余裕がない中で、子どもに向き合う時間をどのように作るかは教育委員会の役割である。</p> <p>また、いじめられた側に立って解決していくことが大事である。現在、いじめの相談については、教育センターだけでなく、学校教育推進課でも相談があれば対応していき、学校だけでなく、教育委員会として対応していく。スクールカウンセラー、外部の専門家との相談の中で早期解決をはかれるよう、充実させていきたい。</p>
福岡市長	<p>いじめ問題については、「起きないようにする」、「起きた後どうするか」の2局面に分けられる。いじめられた側の心の傷がゼロになることはなく、何をもっていじめの解消、解決とするのかは難しい問題である。</p> <p>義務教育の中で、いじめた人間を簡単に排除することはできない。しかし、いじめの被害を受けた側に我慢しろというのもおかしい話である。</p> <p>教育委員会や現場の教員には、完全なゴールがない中で頑張ってもらっている。先ほどお話にもあったとおり、市長部局として、スクールカウンセラーの充実に向けて頑張りたい。また、教員の資質の向上という点については、児童生徒が教員を頼れる環境を作っていくことが大事なのではないか。</p>
福岡市長	<p>【不登校や引きこもりについて】</p> <p>不登校や引きこもりに対する取組や概念が変わってきていると思う。不登校や引きこもりについて、何かご意見や、お考え等があればお聞かせ願う。</p>
堀井委員	<p>いじめの被害を受けた場合、転校は簡単にすることができるのか。</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局	<p>転校が絶対にできないというわけではないが、まずは、教育センターのふれあい教室に通うなど個人の状況に応じた様々な対応をとっている。</p>
堀井委員	<p>無理やりいじめの加害者と同じ学校に通う必要はないと考える。不登校や引きこもりに関しては、転校等も含め、柔軟に対応していくことが必要ではないか。</p>
水上委員	<p>教育現場にいた頃、不登校の子どもは、何とか学校に連れ出さなければいけないとなっていた。しかし、今は、クラスや学校にこだわらなくても、保健室登校や教育センターのふれあい教室等、別の場所を用意することができており、柔軟に対応していただいていると思う。クラスに戻り、集団の中で自己形成を図ることが最終目標だが、無理強いはできない。子どもの状況や保護者と子どもにとってより良い方法を判断していく。</p> <p>教育の提供を最低限保証しながらも、ひとりであるよりもみんなであるほうが楽しいと思ってもらえるような環境を作っていきたい。</p>
岡田教育長	<p>学校がすべてではなく、いろいろな選択肢があっていいと思う。集団生活になじめない子もおり、いじめでトラウマになっている子どももいる。そのような子どもたちが、社会でも生きていけるよう、幸せになれるよう、教育委員会でも不登校や引きこもりに対する選択肢を増やしているところである。</p> <p>不登校や引きこもりの子どもたちに対し、家庭以外の居場所の確保を考えていかなければならない。</p>
福岡市長	<p>現在は、学校へ行かないという選択肢、そういう生き方もあるんだということが認められてきたが、その際は、義務教育の提供という責務を負っている側としては、学びの保障をどうするのかということ、しっかりと考え抜いていかないといけない。</p> <p>教育委員会の中でも不登校や引きこもりの子のための取組がどんどん増えていると感じている。引き続き頑張っていただきたい。</p>
福岡市長	<p>それでは、本案件については以上とさせていただきます。</p>
福岡市長	<p>4 (2) 非認知能力の育成について (協議案件)</p> <p>次に、協議案件の「非認知能力の育成について」、事務局から説明を求める。</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局	【非認知能力の育成について】
福岡市長	何か、ご質問、ご意見等は。
水上委員	<p>現在、幼児教育に携わっており、小学校入学に向けて学力を支える非認知能力を育成していると感じている。ただ見えない力であるため、小学校や中学校に進学した際に、どのように実現されているのかということが測りづらい。</p> <p>そこで、茨木っ子キャリアパスポートや茨木っ子いま未来手帳によって、文字にしたり、絵にしたりすることが、1つの目安になると思う。茨木市において、しっかりと見えるものとして、取組を形にされたということは、幼児教育に携わっている者としては大変嬉しく思う。</p>
堀井委員	<p>子どもにその何か隠れた才能を見つけて、伸ばすのはいいことだと思う。しかし、非認知能力の育成を重視するあまり、学業が疎かにならないようにしていただきたい。</p>
堀村委員	<p>学力の向上のためにも非認知能力が土台として大事であると認識している。社会で生きていく力の中で、非認知能力が脚光を浴びてきているのは、非常に意義のあることだ。</p> <p>子どもたちが自分自身について、わかっているようでわからないところがあると思う。茨木っ子キャリアパスポートや茨木っ子いま未来手帳において、各年代で、自分自身がそのときに思っていたことや周りの評価を残すことで、自分をもう一度見つめ直し、自分の居場所などを築く力を育むことができるのではないか。今後もパスポートや手帳をブラッシュアップしながら、活用していければいいのではないか。</p>
前川教育長 職務代理者	<p>非認知能力について、幼児期から学童期に育ちやすいと言われている。幼稚園や小学校などの活動だけでなく、家庭内で家族の関わり合いの中でも育成されていく。保護者に非認知能力のPRをしっかりと行ってほしい。</p> <p>成長して社会に出ていくときに、自分の能力・適正を見極める力や社会的な対応力などをしっかり身につけるためにも、非認知能力の育成はとても大事なのではないかと思う。</p>
教育長	<p>非認知能力には、自分を高める力や自己コントロール力、忍耐力、協調性、コミュニケーション能力など様々である。非認知能力が高い人ほど、最後までやり抜き、辞める場合も先を見通して辞める、という能力が高い</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
福岡市長	<p>というアメリカの研究結果がある。これらを身につけた上で社会に出て行ってもらいたい。そのためには、日常生活において、教員だけでなく、地域の方々などの言葉かけが大切である。</p> <p>前川教育長職務代理者もおっしゃったように、非認知能力育成のために家庭でできることがたくさんある。家庭でも意識してもらえるようにしていきたい。</p> <p>非認知能力は、これまでも取り組んできたと思うが、この言葉が出てきたことでいろいろと整理され、具体的な取り組みに繋がってきているものと感じている。また、キャリアパスポートは、日記と違って大人の目が入っているので、自分の人生を振り返る際に非常に役に立つとも思う。いずれにせよ、非認知能力の育成は重要なことであり、今後ともしっかりと進めていただきたい。</p>
福岡市長	<p>本案件については以上とさせていただきます。</p>
福岡市長	<p>4 (3) G I G A スクール構想の進捗について (協議案件)</p> <p>次に、協議案件の「G I G A スクール構想の進捗について」、事務局から説明を求める。</p>
事務局	<p>【G I G A スクール構想の進捗について】</p>
福岡市長	<p>何か、ご質問、ご意見等は。</p>
堀村委員	<p>G I G A スクール構想導入により、授業のやり方が劇的に変わっていくのではないかと期待している。全員参加型の授業ができれば、クラス全体の意見を大切にでき、生徒同士の意見が聞きやすくなるのではないかと。</p> <p>また、今後、感染症などが拡大したときに、オンライン授業を実現して、感染拡大を防止することにも期待したい。</p>
堀井委員	<p>G I G A スクール構想により予想されるメンテナンス代が保護者の負担にならないようにしていきたい。</p>
水上委員	<p>子どもたちにとって、これからの社会で生きていく力を養っていくために必要な取組である。今後もしっかりと予算をつけていただき、学校の教育、現場に I C T 教育を根づかせていきたい。</p> <p>これまでの、教員が板書して授業をする形から、学習のやり方が新しい</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
前川教育長 職務代理者	<p>方向に向いていく。新しい教育をうまく利用し、これまで以上に、子どもたちが能力を身につけるよう現場の教員たちに浸透し取組が進むようにしていただきたい。</p> <p>G I G Aスクール構想についてはまだスタートしたところで、活用も含めてまだまだ途上段階だと思う。文部科学省が打ち出した理念が「特別な支援を必要とする子どもを含め、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育 I C T環境を実現する」としており、これに向けて、まだまだ時間をかけてやっていかなければならない。</p> <p>また、端末について、現在は国が全額負担しているが、リース期間の終了に伴い、今後、一部地方負担となる可能性がある。財政力のある自治体とそうでない自治体とで差が出てしまうので、国がしっかり財政措置をとり、国主導で進めていくよう働きかけていただきたい。</p>
福岡市長	<p>そのようなことがあれば、市長会等を通じて、国に働きかけを行っていく。</p>
岡田教育長	<p>コロナ期間と重なってしまったが、本来、リモート授業がG I G Aスクール構想の目的ではない。最終的には、デジタル教科書と情報ツールになっていくのではないか。</p> <p>今後、全教科がデジタル教科書になってしまうと、学力が下がるのではないかと危惧している。デジタルと紙をどのように使い分けしていくのか。様々な教材がデジタル化しているので、何が良くて、何が悪いのかを研究していきたい。</p> <p>また、文部科学省の説明会では、後々は家庭で文房具として買ってもらうとのことだが、各家庭で負担できるレベルになるのか、回線等の問題も含め、全児童生徒が整備出来るのかなど研究していきたい。</p>
福岡市長	<p>個別最適化という言葉が出たように、何を集団でやって、何を個別でやるのがいいのか、個人ごとに進度が違う中、どこを合わせるのかということをしかりと考えていかなければならないと思う。</p> <p>市長部局として、いただいた意見を踏まえて頑張っていきたい。教育委員会にも、「一人も見捨てへん教育」を引き続き頑張っていきたい。</p> <p>5 閉会 これをもって、第1回総合教育会議を終了する。</p>